

京都大学 理学部 地球惑星科学系

地球物理学分野



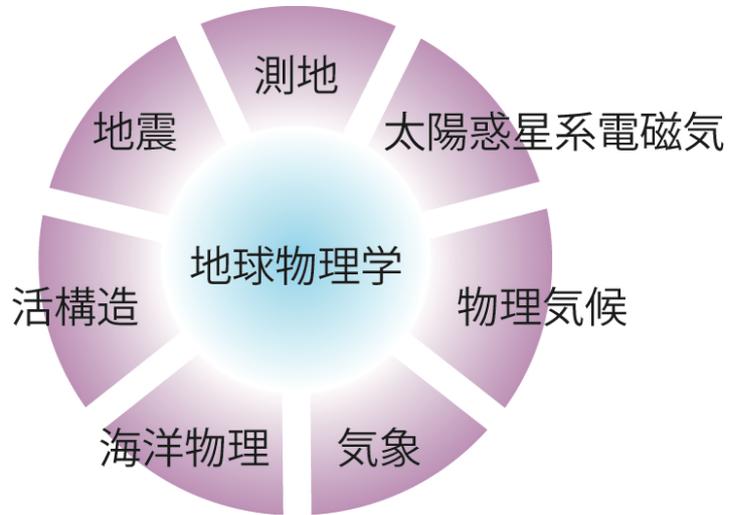
2008年2月15日



地球物理学教室

京都大学理学部地球物理学教室には7つの研究室があり、地球内部から惑星間空間までの地球惑星科学を対象とした研究しています。

<http://www.kugi.kyoto-u.ac.jp/>



測地学研究室：4-6ページ

測地学とは、地球の形と大きさと重力場を定義し、それらの変動を探る学問です。

本研究室が対象としている研究分野

- * 地球の重力場を決定し、地下密度構造を推定する
- * 地球潮汐を観測し、地球内部の構造を推定する
- * 地殻変動を観測し、そのメカニズムを推定する

ホームページ：<http://www-geod.kugi.kyoto-u.ac.jp/index.html>

地震学研究室：7-8ページ

地震学は地球表面の変動（変位、速度、加速度、歪み）を地震計、重力計、歪計を用いて計測し、その記録の解析から地震発生地での岩石破壊の様子、例えば断層運動、そして地球内部（地殻、マントル、核）の地震波速度・密度構造を解明しようとする学問です。

ホームページ：<http://www-seis.kugi.kyoto-u.ac.jp/indexJ.html>

活構造学研究室：9ページ

当研究室は、主に活断層の調査・研究を行っています。活断層とは、「最近の地質時代（おおむね最近数十万年間）に繰り返し活動し、将来も活動することが推定される断層」のことで、1995年兵庫県南部地震以降、広く社会にその存在が知られるようになりました。活断層研究は、地形学（変動地形学）、地質学（第四紀地質学）、地球物理学（地震学）など数多くの学問分野にまたがる学際的な研究分野です。

ホームページ：<http://www-crus.kugi.kyoto-u.ac.jp/crus/default.htm>

海洋物理学研究室：10-13ページ

陸上に生活する生命にとっても、その生活環境（地球環境）に対して海が果たす役割の重要性は生命誕生の時から何ら変わりがないといっても過言ではありません。

海洋物理学研究室では、このような海の役割を、そこに生起する物理現象のメカニズムの解明を通して、明らかにしていくことを目標にしています。

ホームページ：<http://www-ocea.kugi.kyoto-u.ac.jp/>

気象学研究室：14-15ページ

気象学というと、天気予報を思い浮かべるかもしれませんが、じつはもっと幅広く大気現象を扱う学問です。

本研究室では、グローバルな視点から、対流圏や成層圏における大気の力学的な振る舞いを、観測データ解析と理論・数値実験によって調べています。

ホームページ：<http://www-mete.kugi.kyoto-u.ac.jp/index.html>

物理気候学研究室：16-17ページ

数値モデルによる気候の研究を行っています。気候は複雑なシステムですので、それを構成する様々な要素をひとつずついねいに調べることが必要です。そのための観測や人工衛星データの解析なども行っています。

ホームページ：<http://www-clim.kugi.kyoto-u.ac.jp/index.html>

太陽惑星系電磁気学研究室：18-20ページ

宇宙にある物質の99%はイオンと電子が分かれたプラズマ状態になっています。そのプラズマのうち、地球を包んでいるプラズマ環境と、その地球に大きな影響を与える太陽惑星系空間のプラズマ環境について、人工衛星、ロケット、レーダー、計算機シミュレーションなどを使って研究を進めています。

宇宙空間に満ちているプラズマについて調べることは、宇宙開発、宇宙利用を進めていく上でも重要です。

ホームページ：<http://www-step.kugi.kyoto-u.ac.jp/>